

生物産業学部

1. 教育研究上の目的

本学部は、人類生存に極めて重要な生物産業と自然環境が調和した持続的循環型社会の構築をテーマに、これを取り巻く自然科学・社会科学的な課題を基盤とした体系的な文理融合の学びを通して、生物資源の生産、加工、経営と人の営みに関する深い知識と高度な専門性を持った人材を養成することを目的とする。

2. 教育目標

生物産業学部は、その教育研究上の目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 広義の農学を基盤とした生物産業学に関する高度な専門知識と技術を幅広く有する者
- (2) 生物産業学の専門家としての意欲と責任を自覚し、実学主義のもと意欲的に課題に取り組む問題解決能力を有する者
- (3) コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を有し、社会貢献できる者

3. ディプロマ・ポリシー

生物産業学部は、生物産業と自然環境が調和した持続的循環型社会を構築するために、文理融合の学びを通して生物資源の生産、加工、経営と人の営みに関する深い知識と高度な専門性を持った人材を養成することを目的としています。このために、定められた授業科目の単位を修得し、かつ次に挙げる学力と能力を有した学生に学士の学位を授与します。

- (1) 生物産業に係る自然・生命・資源・食料・健康・経営・地域創生に関する専門的な知識と理論を体系的に理解している。
- (2) 生物産業に関する課題を見出し、収集した情報と数量的なデータに基づく解決策を考える論理的思考力を有するとともに、自らの考えを適切に表現できるプレゼンテーション能力や語学力を有している。
- (3) 学内外の諸活動での体験的・実践的活動を通じて多様な価値観に触れてそれを理解し、他者と協働して行動することができる。
- (4) 「学部で習得した学修の成果を国内外の実社会で応用し、実践できる能力と、生涯にわたり学び続けるための自己管理能力を身につけている。

4. カリキュラム・ポリシー

生物産業学部は、生物資源や自然資源を「生産－加工－経営」という生物産業を一貫して学ぶことを「農学」分野における「生物産業学」と捉え、全学部的な教養科目との融合を前提とした各学科が提供する専門科目教育課程の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。

- (1) 基礎的・基盤的知識の修得と生物産業学に係る実践的な専門科目を体系的に学ぶため、「総合教育科目」、「外国語科目」および「専門教育科目」の3つの科目区分により授業科目を配当するとともに、効果的な学修を行うため、各学科で将来目指すコースごとに必要な実践的専門知識と技術を身につけられるよう、履修モデルを設定する。
- (2) 「総合教育科目」および「外国語科目」には、「導入科目」、「課題別科目」および「初修外国語科目」等の区分を設け、異文化理解および国際的視野を形成し、かつオホーツクという立地的特性を考慮した特色ある科目を配当するとともに、専門教育科目を修得する上で必要な基礎的科目を配当する。
- (3) 専門教育科目には、「学科教養科目」および「学科専門科目」等の区分を設け、生物産業学の基礎となる科目をはじめ、オホーツク地域の自然環境や研究フィールドを活かした授業科目や、「生産－加工－経営」というアグリ・フードビジネスを一貫して学ぶ「人と生物産業」および「地域と生物産業」等を配当する。
- (4) 「学科専門科目」の「総合化科目」には、実践的専門知識と技術を修得させる多くの実験・実習・演習科目を必修科目として配当するとともに、課題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等を育成するために、4年間の学修の集大成となる「卒業論文」を必修科目として配当する。

5. アドミッション・ポリシー

生物産業学部は、現代社会にとって不可欠な生物産業（生産－加工－経営）と自然環境の共生をテーマに、わが国有数の生物資源・自然資源を持つ北海道オホーツク地域という学びのフィールドと“冒険は最良の師である”という格言に基づく人間力の育成を重視した教育課程により、21世紀の持続的循環型社会に貢献できる人材を養成します。そのため、本学部では、次のような学生を求めています。

- (1) フロンティア精神・チャレンジ精神を持ち、将来、地域や組織のリーダーとして社会に貢献したいという志を有している。
- (2) 生物産業（生産－加工－経営）およびこれらを統合した6次産業化を、実体験の中で学ぶことに強い関心がある。
- (3) 健全な人間関係の構築を可能にするコミュニケーション能力を有し、協働して課題解決にあたることができる。
- (4) 生物産業学を学ぶにあたり、各学科が求める基礎的学力と必要な知識を修得している。